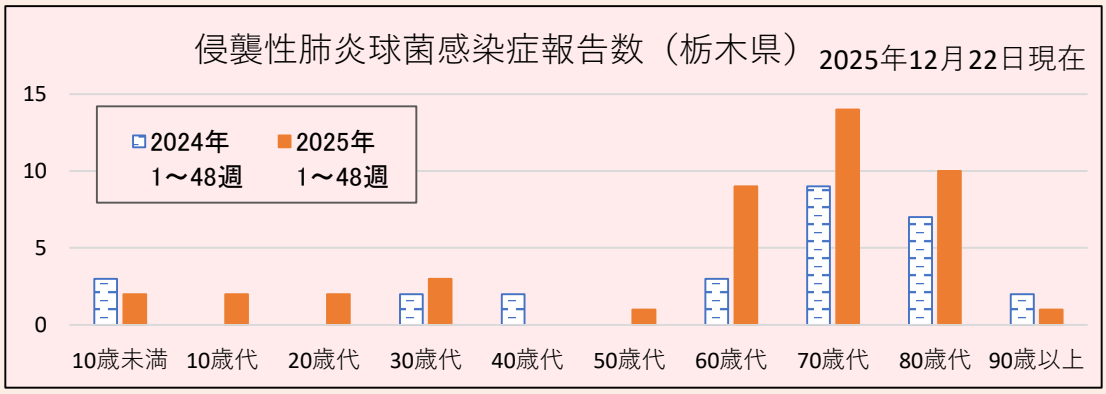
とちぎ感染症情報 １月号

（最新の患者情報）

発生動向等サーベイランス情報

侵襲性肺炎球菌感染症の報告が増えています！

昨年度に比べて報告数が増加しています。高齢者の報告が多いため、ワクチン接種を検討しましょう！



【症状】
急な発熱や咳、肺炎を起こし、髄膜炎では頭痛やけいれんなどの症状が現れます。

【感染経路】
飛沫感染

【病原体】肺炎球菌（5～10%の成人の鼻咽頭に常在しています）

【感染対策】手洗い、咳エチケット、**肺炎球菌ワクチンの接種**
（定期接種の対象：乳幼児、60～64歳の高リスク者、65歳の方）
定期接種は各市町主体で実施しているため、実施場所や接種時期などの詳細は、お住まいの市町にお問い合わせください。

▼予防接種情報（栃木県HP）

感染対策のポイント

シリーズ19：侵襲性肺炎球菌感染症とは？

肺炎球菌は、肺炎、中耳炎、副鼻腔炎などを起こすことが一般的ですが、一部では髄液や血液に侵入して髄膜炎や菌血症といった重篤な病態に至ることがあり、「侵襲性肺炎球菌感染症」と呼ばれています。本疾患の致死率は約15-20%と報告されており、予防が重要です。小児や高齢者、慢性疾患（心臓疾患、肺疾患、腎疾患、糖尿病、肝疾患）、免疫抑制状態、悪性腫瘍、喫煙、脾臓がない（または脾臓機能低下）、などが本疾患のリスクとして知られており、一般的な感染対策に加え、肺炎球菌ワクチン接種が重要となります。

感染症専門家からのアドバイス

肺炎球菌は表面の構造の違い（血清型）によって100種類以上に分類されています。肺炎球菌ワクチンはこれらの血清型のうち、重要なものをいくつか選択しターゲットとして予防効果を持つように設計されています。この血清型の組み合わせはワクチンの種類によって異なります。例えば「23価ワクチン」と呼ばれるものは、特定の23種類の血清型に対して予防効果が期待できるワクチンとなります。また、肺炎球菌ワクチンは免疫反応の起こし方の違いによって、肺炎球菌表面の多糖体（ポリサッカライド）という構造を利用したワクチン（多糖体ワクチン）と、多糖体にキャリア蛋白とよばれる構造を結合させたワクチン（結合型ワクチン）の2つに区別できます。結合型ワクチンの方が、より免疫応答が得られやすく長期間予防効果が期待できるとされています。